

民主化闘争情報

No. 924

2015年3月25日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

安全確立と信頼回復が急務の課題のJR北海道で、企業体質の改善に向けて阻害になっているものの一つが労働組合問題である。中でも、「革マル派の最大母体でもある北鉄労が一番の問題」などとマスコミが批判的に論じている。

これがJR総連・JR北海道労組の実態！？(vol.5) 革マル派の最大母体でもある北鉄労！？ 革マル派『ペンネーム』を持つ幹部も存在！？

「新聞やテレビが伝えないJR北海道内部に潜む『闇の組織』を追う」の記事で、公安関係者の証言等を引用し、JR北海道労組（北鉄労）を厳しく非難している。

『革マル派の最大母体である北鉄労が一番の問題なのに歴代の経営陣はいいなり』

JR北には現在四つの労働組合があるが、そのうち社員の80%以上を占める最大労組が北鉄労（JR総連・JR北海道労組）だ。（中略）極左過激派集団“革マル派”の最大母体としても知られる。

関係者によれば、北鉄労は新旧2人の大幹部による二頭体制で運営されている。

2人ともJR北内に潜伏した革マル派の活動家である。彼らを含む幹部は革マル派内で秘密黨員名を持っているが、数人の幹部は「小暮」や「立花」などのペンネームを使って機関紙に執筆しているという。

会社の専権事項である人事や経営にも口を出し、大きな影響力を持っているので経営陣も北鉄労を無視できない。当時のJR北社長だった中島尚俊氏が入水自殺した事件があったが、この背後にも北鉄労の存在があるといわれた。

JR北では、会社が何をやるにも北海道労組（北鉄労）がフィルターとなり、思うような労務管理ができない。明らかに会社よりも北鉄労のほうが強く、時には恫喝を用いて会社を脅してくる。経営陣も一部革マル指導部のいいなりだ。（公安関係者）

（THEMISより抜粋）

さらに、「財界さっぽろ」によれば、「新入社員は入社してすぐ、研修中にもかかわらず、組合加入を勧められ、言われるがままに加入するケースが大多数」だという。閉鎖的、強制的、脅迫的と揶揄され、革マル派との関係も指摘されるJR北海道労組に何も知らずに加入しているとすれば、彼らは被害者なのかもしれない。

自由で民主的な職場の構築を目指し、JR連合・JR北労組への結集を果たそう！

**JR総連・JR北海道労組の組織運営に疑問を抱いている皆さん
安心できる職場の構築にむけて、JR連合・JR北労組に結集しよう！**